

## 令和3年度 事業計画

### 事業概要

#### 【期 間】

令和3年4月1日から令和4年3月31日

#### 【概 要】

当財団は公益法人として、公益法人制度の趣旨に鑑み、公益性の高い法人運営を行っていく。

普及啓発事業においては、田んぼ体験や観察会の開催など野外における体験学習の実施のほか、「マリニピアカレッジ」と称し、様々な分野の専門家や研究者を講師として招聘し、講演会や体験プログラムを実施する。また、学校団体等を対象とした校外学習や出張授業、学校向けワークシートの制作・提供などを通し、教育施設との連携を図る。

調査研究・保護継承事業においては、野生水族に関する生息調査等を行い、地域の自然史に関する知見の蓄積に努める。

水生生物の展示及び飼育事業（水族館事業）では、昨年、新潟市水族館マリニピア日本海が開館30周年の区切りの年を迎えたことから、様々な記念事業を実施した。令和3年度は、通常飼育展示に加えて、30年間積み重ねてきた数々のチャレンジ（展示・繁殖・研究・教育）を活かし、さらに充実した展示・プログラムを実施し、また、ウミガラスの新規展示に取り組むなど、新たなスタート・チャレンジへと繋げていきたい。

新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見えない中、新潟市水族館の指定管理者としては、お客様の安心・安全を第一に考え、「新潟で一番愛される施設」という私たちのビジョンを達成するため、これまで以上にサービスの提供、満足度向上に努める。

#### 【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

### 公益目的事業

#### 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

##### 【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発

区 分	名 称	プログラム等	内 容
体験学習	田んぼ体験	田植え	稲作体験（田植え・稲刈り・脱穀）と、収穫したわらを利用したわら細工体験を通して、新潟での稲作の文化、田んぼの環境や生息生物と人との関係を学ぶ機会とする。
		稲刈り	
		脱穀	
		わら細工	
体験学習	野外観察会	潟のいきもの観察会	潟に生息する水生生物の採集や観察を通し、新潟が誇る水辺環境である里潟への理解を深める。
		スナガニ野外観察会	地先海岸の砂浜に生息するスナガニの観察や採集を通して、砂浜を利用する生き物について理解や興味を深める。
講演会	マリンピアカレッジ	昆虫	・講師：新潟県立鳥屋野公園 管理事務所長 浅野涼太氏 ・屋外施設であるにいがたフィールドに生息・飛来する昆虫を中心に、市内で見られる種について紹介する。
		バイオロギングと頭骨（ペーパークラフト）	・講師：長岡技術科学大学 准教授 山本麻希氏 ・野生動物に取り付けた記録装置から得られる情報で明らかになった行動や生態について紹介する。また、水族館周辺にも生息するタヌキについて、頭骨のペーパークラフトづくりを通して学ぶ。
		クロヌタウナギ	・講師：東京都足立区生物園 解説員 西山真樹氏 ・強い粘液を体から出す深海魚クロヌタウナギ本種の分類や進化について紹介する。
		海鳥	・講師：長岡市立科学博物館 学芸員 鳥居憲親氏 ・ウミガラスなど海鳥の生態や海での生活への適応を紹介する。
		水草	・講師：新潟大学 准教授 志賀隆氏 ・川や潟の水辺で目にする水草について紹介する。また、にいがたフィールドで見られる水草の観察と水草を用いた工作を行う。
		クラゲ	・講師：山形県鶴岡市立加茂水族館長 奥泉和也氏 ・クラゲ飼育数世界一の同館のクラゲを紹介する。
各種施設との連携	出張展示	市場まつり 県主催イベント 科学教室 など	館外へ出張して、水生生物の生体展示、活魚輸送車の展示、缶バッチの制作、写真を用いたクイズ大会・ワークショップなど楽しく学ぶ機会を与える。

	社会教育施設連携	舟にのって水草刈りと泥上げ体験	新潟市歴史博物館との連携プログラム。潟環境の整備と水田に栄養分を添加することを目的に、にいがたフィールドの砂丘湖で舟からの草刈り体験とため池で上げた泥を田んぼに入れる体験を行う。また、水田と潟環境の歴史的な関係を講義により紹介する。
	学校教育施設連携	校外学習の受入	水に棲む生物の飼育環境に関する情報を学校からの質問に合わせて、写真や資料を用いて講義する。

## (2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	J A Z A (日本動物園水族館協会) 関連	水族館技術者研究会、海獣技術者研究会、イルカ会議など
	J A A (日本水族館協会) 関連	水族館研究会など
	その他研究会・学会	日本動物園水族館教育研究会、さけ・ます等栽培対象資源対策事業など
各種会議	J A Z A 関連	設備会議、事務主任者会議、生物多様性委員会、種保存会議など
	J A A 関連	トレーニングセミナー、広報セミナーなど
	その他会議	新潟県博物館協議会、大都市動物園水族館事務主管者会議、新潟市里潟研究ネットワーク会議など

## (3) 海洋・河川文化の保護保全（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容・回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2回
	ホトケドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・1回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・5回
	キタドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2回
	ハクバサンショウウオ調査	糸魚川市の両生類の生息調査・2回
連携調査	R O V (水中探査機)	寺泊・間瀬沖で深海生物の調査・1回
	親子魚探検(五泉・新発田)	生物多様性保全ネットワーク主催の自然観察会への講師派遣・2回
	水あぶり(関川)	タランベクラブの自然観察会への講師派遣・1回
	スナガニ調査	長岡市科学博物館との共同調査・15回

## 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

### 【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

### 【主な事業内容】

#### (1) 水生生物に関する知識の普及振興

名称	プログラム	内容
企画展示	海を流れるモノ（夏季）	様々な漂着物の実物、水族館の調査資料を中心に、生体や標本、パネルなどを用いて漂着物に関する情報を解説する。
	ウミガラスってどんな生き物？（秋季）	新規展示予定のウミガラスの生態や生息環境、人間との関わりについてパネル展示を行う。
	フォトコンテスト（冬季）	マリンピア日本海で撮影した写真を公募し、コンテストを実施する。また、コンテストの受賞作品を展示する。
	新潟のタナゴ（春季）	新潟県に生息するタナゴ亜科魚類 4 種と新潟県では絶滅とされながら生息が確認されたゼニタナゴなどを生体、標本、パネルを用いて展示する。
いきもの教室	貝の標本作り	水族館地先の海岸にて貝の採集を行い、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作成の手順を学び実践する。
	いきものホネホネ観察	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類のそれぞれの骨を実際に見たり触ったりして、体の仕組みや骨の作りの違いを学ぶ。
	鳴き声に注目	イルカやペンギンなど、いきものが出す様々な音を聞き、その時の動物がどんな状態、特徴を持つのかを考えてもらう。
大人向け教室	写真教室	水槽撮影時に役立つ技術をレクチャーし、実際に館内で撮影を行う。撮影後は作品発表を行う。
	水族館講座（4回）	水族館の飼育システムや飼育生物についてのレクチャー、水族館の役割、生物多様性の話、参加者によるワークショップなどを行う。また、毎回、障がい者などこれまで対象としていなかった方々を対象としたプログラムとする。
特別ガイドツアー	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽を観察しながら、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説し、水生生物の夜間の生態を紹介することで多様な生物の生活戦略を知ってもらう。
参加型イベント	イルカバックヤードミニガイド	バックヤードやステージを解説しながら案内する。
	育成室開放	通常入室できない本館地下の育成室を、職員立ち合いのもと入館者に開放する。

	にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを解説しながら案内し、環境と希少生物の域外保全等を紹介する。最後に、その時期に観察できない生物の紹介と解説を補足するための冊子を配布する。
記念日イベント	ペンギンの日	4月25日は世界ペンギンの日とされている。普段の展示を見るだけではわからないペンギンの生態や野生の現状について理解を深めてもらう。
	カワウソの日	ユーラシアカワウソの解説、アクアラボ内にて缶バッチづくり、毛皮の展示、カワウソ類のぬりえ等を実施する。

## (2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容・回数
飼育展示	館内での飼育展示	600種30,000点を超える飼育規模を維持
	ウミガラス新規展示	国内では絶滅危惧種であるウミガラスを新たに展示し、水生生物の多様性や環境保全について解説を行う。
常設解説	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説する・4～5回/日
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行う・2回/日
	ペンギン解説	ペンギンの分類や生態、生息地の環境について解説を行う・2回/日
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境に関する知識の普及、水族館のしくみを解説する・1～2回/日
	磯のいきもの解説	磯のいきものについて解説を行う・1回/日
	アクアラボ体験プログラム	CCD顕微鏡や大型モニターを用いて海の生物の実験的な解説を行う・1回/日
生物収集	相模湾乗船	キンメダイ、シキシマハナダイなど乗船採集・1回
	佐渡乗船	エビカゴ漁乗船採集（深海生物）、定置網乗船採集・6回
	寺泊乗船	アカムツ漁乗船採集（深海生物）・定置網乗船採集・5回
	岩船乗船	アカアマダイ漁乗船採集（深海生物）・1回
	出雲崎（アマモ採集）	アマモ場生物採集・10回
	能生乗船	ベニズワイ漁乗船採集（深海生物）・1回
	間瀬乗船	ハツメ・マダラ・アズマハナダイなど乗船採集・3回
	和歌山（串本）	スマ・ハガツオなど輸送・2回
	島根（隠岐）	スマ・ハガツオなど輸送・1回
	新潟県内淡水生物採集	カジカ大卵型・オイカワ・アブラハヤなど採集・5回
	山形（飛鳥）	加茂水族館との共同採集・1回

生物交換	ふくしま海洋科学館	活魚車による輸送・10回
	東海大学海洋科学博物館	活魚車による輸送・1回
	のとじま臨海公園水族館	活魚車による輸送・1回
	大洗水族館	活魚車による輸送・1回

## 収益事業

### 1 施設管理に付帯する事業

#### 【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行う。

#### 【主な事業内容】

区分	設置数・場所
レストラン	1ヶ所・本館2階
軽食	2ヶ所・屋外、屋上 ※季節・天候により営業中止
移動販売車	1ヶ所・アプローチ棟手前 ※季節・天候により営業中止
売店	1ヶ所・アプローチ棟
自動販売機	18ヶ所・館内各所
ロッカー	1ヶ所・アプローチ棟
記念メダル	2ヶ所・本館1階
プリクラ	1ヶ所・水辺の小動物